

## Building lifestyle around Ferrari

# 日本人であることを意識する瞬間

白いボディのF12tdfに青い空。いかにも夏らしいこの表紙に至ったのは切っ掛けがあり、『タタカエ、フェラーリ!』と題した巻頭特集とも無関係ではない。



このコラムを書く直前、W杯サッカーの日本対コロンビア戦があった。隣の席のスタッフが待ち時間にライブ中継をネットで見ていたので、こちらもついつい気になって見てしまった。決してナショナリストではないし、何か特別な主義、主張を持っているわけではないが、こういう日本人が世界の何かと戦う姿を見ていると、自分が日本人であることを意識してしまう。

繰り返し何とか主義ではないと強調しつつ、個人的に『君が代』は好きだ。あの荘厳で、空気が"しん"としまる雰囲気。P10〜で紹介する『海上自衛隊/米海兵隊岩国航空基地フレンドシップデー』の取材中に君が代が流れた時、パスポートチェックを受けて"入国"した米軍基地にいたせいなのか、何故か身の引き締まる想いで、そして日本人でよかったとこれまた意味もなく感じたのである。

レーシングドライバーの澤圭太選手、いや彼とは同郷で年も近く付き合いも長いので敢えて澤君と書くが、ル・マンのオープニングで君が代が流れた時に泣いたと語り(蛇足ながら出場ドライバー全員の国家が流れるそう)、何故かドイツ国歌でも泣いてしまったと笑いながら語ってくれた。そういった感極まる瞬間はそこに身を置いたからこそ来たわけで、そこに至ったことに敬意を表したい。

そしてもうひとり、石川資章さん。そのフェラーリでのレース挑戦は何度か誌面でレポートしてきたが、WECフル参戦=ル・マン参戦を昨年末に聞いた時は本気で驚いた。そしてその行方が気になった。51歳という年齢で、果たしてどこまで昇っていけるのかと。そんな最中、澤君とFacebookのメッセージでやり取りをしている時に彼が書いた『どこかで対談やりましょう!』というひとことから、今回の企画は始まった。澤圭太、石川資章というふたりの"日本人フェラーリ・ル・マン・ファイター"を中心とした巻頭特集。題して『タタカエ、フェラーリ!』。812スーパーファスト対エアレーサー、488ピスタ初試乗という魅力的なコンテンツが舞い込んできたのも幸運だった。しかも488ピスタの原稿を執筆頂く西川 淳さんは、試乗直後にル・マン観戦に行くというではないか!

そこで疑問に思った方もおられるかもしれない。ではなぜ今回の表紙が812でも488ピスタでもなく、F12tdfなのかと。

こちらは石川さんの"愛馬"で、白状するならば、対談の取材をしていてあまりのシチュエーションのよさに、急きょ表紙の撮影をすることにしたのである。快諾頂いた石川さんと対応頂いた藤井元輔カメラマンには感謝の言葉しかでないが、これは私からチャレンジャー石川さんへ向けた敬意であり、結果としてル・マン・ファイターたちへの応援旗となったと思っている。何故ってもちろん、"白い"ボディと実は"赤い"カーボンの組み合わせは我々のナショナルカラー、日の丸そのものだから。ガンバレ、ニッポン!

